

平成26年12月19日

### 第30回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

#### 1. 第30回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時 平成26年12月18日（木）

場 所 オリエンタルホテル広島

#### 2. 受賞者

県民文化奨励賞

橋本 眞介氏（音楽家）広島市在住

今田 拓志氏（陶芸家）北広島町在住

第30回記念特別賞

小山田 浩子氏（小説家）広島市在住

#### 3. 受賞者の紹介

県民文化奨励賞

橋本 眞介氏（音楽家）

橋本氏は、昭和41年に香川県でお生まれになり、平成3年に武蔵野音楽大学器楽科を首席で卒業後、シエナウインドオーケストラを経て、広島交響楽団に入団。ドイツへ2年間の留学経験をされ、帰国後は、楽団員としてオーケストラ活動、ソリスト活動や氏が主宰されている広島クラリネットアンサンブルにおいて、過去10回の定期演奏会、県外・海外での公演、「タナトス」「チャールダシュ」「暁の変容」の3枚のCDをリリースされた室内楽活動。また、演奏活動だけでなくメディアでの音楽プロデュース、平成13年4月からは、エリザベト音楽大学非常勤講師としてクラリネットの技術指導にて優秀な人材の育成や幼稚園・児童館などへの出張音楽会を通して社会奉仕活動もされており、幅広い年代の方々にクラリネットの魅力を伝えておられます。

#### 今田 拓志氏（陶芸家）

今田氏は、昭和45年に岡山県でお生まれになり、高等学校在学中から自らの手で“モノ”をつくりたいという思いが強くなり、美術の世界に進まれ、東京藝術大学美術学部工芸科陶芸専攻へ進学。優れた資質を開花され、平成8年東京藝術大学大学院陶芸専攻修了。平成9年8月、山県郡大朝町にある筏律芸術村に拠点を移され、本格的な制作活動を開始。造形のテーマとしては、「種（たね）」を追求されており、大ぶりの器体は、ロクロによって引き出された膨らみのある姿と縁のシャープな作りが大きな特色。また、「燻（いぶし）」の手法で質感のある黒い作品を中心に制作されているが、近年では白色系の作品制作にも挑戦。平成12年の「第17回田部美術館茶の湯の造形展」での奨励賞受賞を皮切りに、多くの公募展において入賞。また、陶芸活動だけにとどまらず、比治山大学短期大学部准教授として卓越した指導力による優秀な人材の育成や新匠工芸展の運営委員など我が国の陶芸界をリードしておられます。

#### 第30回記念特別賞

#### 小山田 浩子氏（小説家）

小山田氏は、昭和58年に広島市佐伯区でお生まれになり、広島大学文学部日本文学語学講座を卒業。旦那様のひと言がきっかけとなり小説を書き始めるようになられる。氏は、周りにあるもので不思議だなあと感じたことをメモするところから始められた。小説手法としては、物語の順番とは関係なく思いつくままに断片的なシーンをたくさん書き溜めた後、ひとつの作品として完成させている。氏は、平成22年に『工場』にて第42回新潮新人賞を受賞され、小説家デビューされる。平成25年刊行の『工場』では、初めての単行本でありながら第26回三島由紀夫賞にノミネートや第30回織田作之助賞、第4回広島本大賞も受賞。平成26年1月に『穴』にて日本を代表する文学賞である第150回芥川龍之介賞を受賞。これらの受賞は、県民に大きな喜び、感動、そしてなにより、文学を目指す若者たちにとって大いなる励みとなっています。